

令和8年度「健やかな体」育成プログラム

学校番号：22007

学校名：篠路小学校

	令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 結果	分析	
体力・運動能力 <男子>	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均より上回った種目 <ul style="list-style-type: none"> ・握力 ○全国平均よりやや上回った種目 <ul style="list-style-type: none"> ・長座体前屈 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均よりやや下回った種目 <ul style="list-style-type: none"> ・上体起こし ・50m走 ・立ち幅跳び ○全国平均より下回った種目 <ul style="list-style-type: none"> ・反復横跳び ・20m シャトルラン ・ソフトボール投げ 	<p>学校には、様々な運動に親しめる機会や環境がある。それによって、子どもたちは運動への意欲と意識を高め、外遊びをしている。</p> <p>R6～7年度は「しのろっこスポーツの日」の取組において50m走の計測を行っていて、女子が全国平均と比べ「やや上回る」結果となった。</p> <p>今後は、毎時間の準備活動や体づくり運動などで筋力をつけていく必要がある。</p> <p>体育の授業など体を動かすことに肯定的な思いをもっている子は多い。スマートフォン、ゲーム機など画面を見る時間が長くなると体力合計点が低下していく傾向が見られることから、スクリーンタイムを減らすための取組が必要である。</p>
体力・運動能力 <女子>	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均よりやや上回った種目 <ul style="list-style-type: none"> ・握力 ・50m走 ・長座体前屈 ○全国平均よりやや下回った種目 <ul style="list-style-type: none"> ・立ち幅跳び 	<ul style="list-style-type: none"> ○全国平均より下回った種目 <ul style="list-style-type: none"> ・上体起こし ・反復横跳び ・20m シャトルラン ・ソフトボール投げ 	
運動・スポーツへの意識、運動習慣	<ul style="list-style-type: none"> ○「運動やスポーツをすることが好き」「体育の授業は楽しい」と回答する子どもの割合 R6 男子：92.4% 女子：90.0% R7 男子：88.5% 女子：72.7% 	<ul style="list-style-type: none"> ○1日（平日）に2時間以上テレビやゲーム機、スマートフォン等の画面を見ている児童生徒の割合 ※（）は全国 R6 男子：76.1%(64.8%) 女子：96.0%(58.4%) R7 男子：79.1%(63.3%) 女子：69.8%(57.4%) 	

三つの取組	①体育・保健体育等の授業の充実	②授業以外で子どもの運動機会を創出する取組	③子どもが自ら健康の保持増進を図る取組
-------	-----------------	-----------------------	---------------------

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動学習量を十分に確保する体育授業の充実 ・重点週間の設定(マット運動週間・とび箱運動週間他) ・めあての確認や振り返りの場を設ける。 ・一人一台端末の効果的な活用方法の検討。 ・子どもが楽しみながら運動する教材・教具の導入や場の構成、時間配分を工夫するとともに、全教職員で情報共有を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動意欲を喚起する環境の充実 【GO TO しのロード】 休み時間や放課後にグラウンドを走る。(1周300m) 【しのろハワイランド】 校庭にある噴水を開放し、中央の噴水の上や噴水の中を目がけてボールを投げる。 【しのケンパーク】 玄関からグラウンドへ向かう通路でケンパを行う。 【逆上がりチャレンジ】 逆上がり補助器2台を設置し、練習の場を増やす。 【月まで届け 1・2・3!!】 ムーンボールを床に強く投げつけ、遊びながらフォームや調整力を身に付けることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 命や性に関する指導を系統的に教育課程に位置付け、充実させていく。 ○ 保健便りや給食便り、学校便りなどを活用し、外遊びの奨励や読書時間、学習時間の確保、望ましい生活習慣について発信していく。(まほうのかいわ) ○ 毎月19日の食育の日での食・体づくりへの指導(苦手な食べ物への挑戦、食べ物に感謝する気持ちなど)を引き続き行っていく。 ○ 食指導や保健指導のカリキュラムに基づいて、基本的な生活習慣、食習慣を身に付けることができるようにする。
--------	--	---	---

家庭・地域との連携・協働	<ul style="list-style-type: none"> ○ エスプラダ北海道のプロ選手にフットサルの指導を、外部講師にタグラグビーの指導を依頼する。 ○ 少年サポートセンター講師に「自分の大切さを考える授業」を、保健師に「からだの成長」を、助産師に「いのちや性に関する指導」を依頼する。 ○ 歯科指導において、「ライオン歯みがき大会」に参加する。 ○ 薬物乱用の危険性について、北海道警察の方に On line での指導を依頼する。 ○ スキー学習において、保護者の方に指導補助を依頼し、子どもの安全の確保に努めるとともに、十分に運動時間を確保できるようにする。
--------------	---